



地

域

医

療

連

携

の

会

お知らせ

我が国ではこれまでにない勢いで高齢化が進行、現在国民の約4人に1人が65歳以上であり、2042年には65歳以上が3,900万人とピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。これに伴い団塊の世代(約800万人)が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加し、現在の医療・介護のシステムのままでは国の財政に大きな影を落とすことが必至とされています。

厚生労働省は、2025年(平成37年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進すべく種々の政策を打ち出してきています。地域包括ケアシステムの主旨は、重度の疾病や認知症などにより要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域の包括的なケアシステムのことです。とは言っても、現在の日本では今後人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部ばかりでなく、人口がすでに減少してきている地方の町村部まで、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じており、画一的な政策では事は運ばないと考えられており、国は地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要だとしております。それぞれに地域特性に合わせて医療・介護の関係機関が連携して、多職種協働により包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことを進めており、これまで以上に病院や介護施設などの連携を密にとる事が重要視されております。

私ども掖済会病院でもかかる国の方策に適應していくべく、今回地域連携の会として地域包括ケアシステムに関する研修会を開くこととなりました。ふるってご参集ください。

私ども掖済会病院でもかかる国の方策に適應していくべく、今回地域連携の会として地域包括ケアシステムに関する研修会を開くこととなりました。ふるってご参集ください。

神戸掖済会病院
地域医療連携の会

地域包括ケアシステム構築 に向けて私たちができること

研修会開催のご案内

参
加
無
料

平成 29 年

9 月 16 日(土)

PM 14:00 ~ 17:00

場所

神戸市立
垂水勤労市民センターレバンテホール
(レバンテ垂水2番館 3階)



●●●●● 講 師 ●●●●●

重田 由美

一般社団法人日本地域統合人材育成機構
特定非営利活動法人全国連携実績者ネットワ
ーク理事
J-RIHDO 代表理事

****内 容****

1. 地域包括ケア時代の連携
2. 選ばれる病院はスタッフ一丸となつた地域連携
3. つながる心と接遇

+++++

当院各診療科別の講演も予定しております
(循環器内科・形成外科・救急科 他)

お問い合わせ 078-781-1411 (直通)

より安全に、より快適に

院内の呼吸管理を 私たちRSTがバックアップします

「RST」とは(Respiratory Support Team)の略で、一般的に「呼吸ケアサポートチーム」と呼ばれます。医師、看護師、臨床工学技士、管理栄養士、理学療法士など多職種が集まって専門的知識を持ち寄り、院内における呼吸療法が安全で効果的に行われるよう、横断的にサポートするチームのことで

厚生労働省の診療報酬に「呼吸ケアサポートチーム加算」という項目があります。48時間以上継続して人工呼吸器を装着している患者様に対し、週1回、150点算定されます。

当院でのRSTは2014年5月に発足しました。

呼吸ケアサポートチーム対象患者様としては

- ① NPPV (非侵襲的陽圧換気) を含む人工呼吸器装着中の患者 (ICU)
- ② 人工呼吸器離脱から1週間以内の患者
- ③ 呼吸状態が不安定な患者
- ④ 呼吸管理においてコンサルテーションを受けた患者

主な活動内容として

- 1、診療支援：病棟や診療科からの相談、人工呼吸器離脱に向けての実践や助言、モニターの整備など
- 2、呼吸療法の標準化：院内マニュアルの作成、物品の統一や見直し等
- 3、教育：レベル別の講習、シミュレーション・トレーニングの企画と運用、蓄積データの学会での発表など
- 4、呼吸療法やRSTの周知・実践：病棟回診、リンクナース体制整備など

人工呼吸器装着患者の安全管理、合併症予防、離脱計画・呼吸器リハビリテーション計画を策定し、人工呼吸器の治療を受けておられる患者様の状態を把握し、適切なアドバイスや支援を行うためのラウンドを行います。それぞれの職種が専門領域や技術を活用し、患者様が人工呼吸器による治療を安心して受けられるように病棟の看護師や主治医と相談をしています。月に1回、委員会を開催し呼吸ケアに関する問題や人工呼吸器に関する物品の検討を行っています。

また呼吸に関する様々な情報を提供するためのRSTニュースの発行(右図参照)、病院スタッフからの呼吸に関する問題を解決する手伝いや呼吸ケアに関する講習会を開催して、呼吸ケアの質の向上に努めています。現場で呼吸について悩んでいること、誤嚥性肺炎予防・酸素療法・気管切開時のチューブの選択など、呼吸について様々な相談を受け、患者様に安心して療養していただける環境作りができるようサポートしています。

呼吸ケアサポートチーム



RSTニュース Vol.6.

こんにちは、RSTです。今回は、
在宅酸素療法(HOT)のパンフレットのご案内です!!

HOTの巻子さん?
ずっと読んでるけど...
HOTって?

結果さえあれば、
家に帰れるのに...

『在宅酸素療法の適応がありそうな、患者様が入院している。』
『医師から在宅酸素療法に移行したいと依頼があるが、
どうしてよいかわからない...』
という経験はありませんか? RSTでは、当院用のパンフレットを作成しました。患者指導はもちろんの事、HOTの基礎知識にもお役にたきたい。*

※分からない事や困ったことがあれば、呼吸サポートチームまでご依頼ください。*

*** RSTメンバーの紹介 ***

<医師> 藤 (循環器内科) 福岡 (麻酔科)

当院は呼吸器内科がないため、麻酔科及び循環器内科で、あまり呼吸器になれていない医師に対して呼吸器の管理や酸素療法のサポートを行っています。また院内での勉強会を企画し、レベルアップを図っていくよう心がけています。

<看護師> 前田、芝本、立助、小林、師玉、神谷、青木、石原、坂本

病棟、ICU 間での継続した看護ケアの提供、人工呼吸関連事故件数の減少への働きかけ、在宅酸素使用患者への生活指導を行っています。また、呼吸に関する看護ケアの指導など病棟 (各部署) へ出向き、出張研修を行っています。

<臨床工学技士> 鼻、鈴木

日常業務として人工呼吸器の返却点検、作動点検、定期点検、回路交換、加温加湿器の取り付け、NPPV のマスクフィッティング、リーク確認等を実施しています。RST の活動としては臨床工学技士 5 名中 2 名 (呼吸療法認定士 1 名含む) を RST メンバーとし、人工呼吸器 (搬送用含む) の更新機器の検討や使用説明会の開催、各種新製品の紹介・評価などを行っています。現在はオープンフェイスマスクや、高流量酸素システムの推進を検討しています。今後の活動として ASV (二相式気道陽圧呼吸療法)、在宅用呼吸器の機器管理の充実を考えています。

<管理栄養士> 岡本



呼吸管理が必要な患者様に対する栄養面でのサポート。必要に応じて NST と連携し栄養強化に努める。

<理学療法士> 山下、近藤

人工呼吸器装着中のベッド上安静による、廃用症候群を予防し、呼吸器からの離脱がより効果的に行えるよう、患者様個々の必要性に応じ、呼吸リハビリを実施します。

痰を自分の力で出せない患者様には、喀痰のために有効な姿勢管理や介助を行います。胸郭の動きが固い場合はストレッチなど合わせて実施し、胸郭の可動性や柔軟性の改善を図ります。早期に「起きる」「座る」ことを促し、廃用症候群の予防・改善に努め、状態に合わせて離床を進めていきます。

呼吸サポートチーム



在宅酸素を使用される患者様へ

HOTを実施するにあたって
必ず、主治医が決めた酸素の流量と吸入時間を守りましょう!!
※吸入時間によって適切な酸素の流量と吸入時間、主治医によって決められています。

酸素供給装置について
酸素流量は空気中に含まれる酸素の濃度を濃縮し約 90% の酸素を供給する装置です。呼吸器で作動し、呼吸器の専用回路に酸素を供給でき

時間、
時間、
時間、

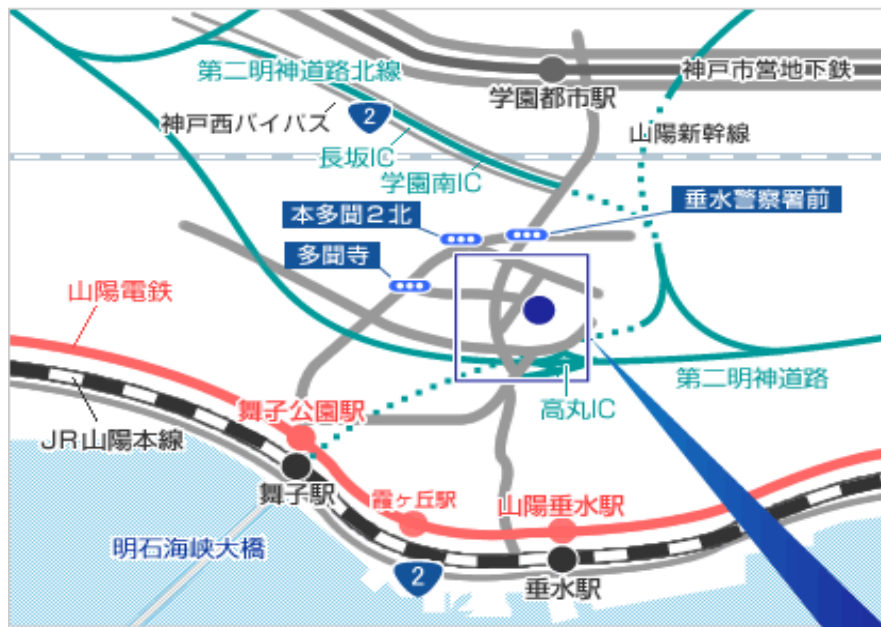
しょう、
しょう、

神戸振済会病院

在宅酸素患者様への生活指導用パンフレット



(注) 太文字下線氏名は呼吸療法認定士です



周辺図 ▶



【地下鉄学園都市駅から】山陽バス・神戸市バス 約12分

【地下鉄名谷から】山陽バス 約20分

【JR垂水駅から】山陽バス・神戸市バス 約20分



〒655-0004
 神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号
 TEL: 078-781-7811 (代表)
 FAX: 078-781-1511
<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>